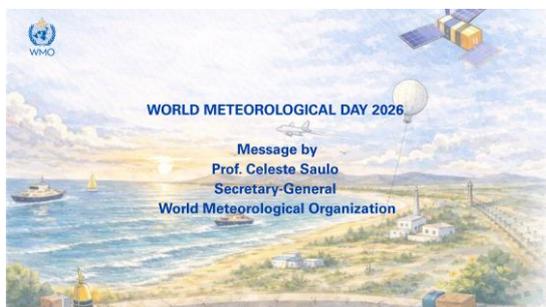


世界気象デー（2026年3月23日）

～2026年のテーマは「今日を観測し、未来を守る」～

“Observing Today, Protecting Tomorrow”



世界気象デー2026のバナー  
(出典：WMO 特設ページ)

世界気象機関（WMO）は、1950年（昭和25年）3月23日に世界気象機関条約が発効したことを記念して3月23日を「世界気象デー」としており、毎年、気象業務への国際的な理解促進のためのキャンペーンを行っています。今年のテーマは「今日を観測し、未来を守る」で、WMOでは、3月23日（月）にスイス・ジュネーブの本部で記念セレモニーを開催する予定です（詳細はWMO 特設ページ参照）。

私たちが普段目にする天気予報や防災気象情報等は、気象庁を含む世界各国の気象局が24時間365日絶え間なく観測を行い、WMOの枠組みのもと、国際的にリアルタイムで交換される膨大な観測データ（国際観測ネットワーク）により支えられています。しかしながら、後発開発途上国や小島嶼開発途上国では、気象観測データが得られない空白地帯が存在するなど解決すべき課題が残っています。こうした地球規模の観測網を構築するための世界的な取組を称えつつ、さらなる国際協力を推進するため、今年のテーマが設定されました。

観測は、単にその時々気象現象の監視に留まらず、そのデータは、防災気象情報の発表や気候変動対策、エネルギー計画・農業計画・インフラ投資計画といった経済活動の意思決定の基礎となり、私たちの未来を守ることにもつながっています。気象庁は、WMOによる国際的な観測ネットワークを支えるため、世界の気象観測データの品質管理や気象測器の精度維持、国際的なデータ交換などの分野において、WMOのアジア地区で中心的な役割を果たしているほか、気象衛星ひまわりの観測データを各国に提供し、利用技術に関する研修を行う等、国際協力を行っています。今後も引き続き、WMOの枠組みのもとで、世界の気象業務の発展に貢献していきます。

ソーシャルメディアで世界気象デーを話題にする際は、ハッシュタグ「#WorldMetDay」をご利用ください。

・WMO 特設ページ（英語）：

<https://wmo.int/site/world-meteorological-day-2026>

<https://wmo.int/site/world-meteorological-day-2026/world-meteorological-day-2026-ceremony>

・気象庁特設ページ（日本語）：

[https://www.jma.go.jp/jma/kokusai/kokusai\\_wmd.html](https://www.jma.go.jp/jma/kokusai/kokusai_wmd.html)

(2026年3月18日 気象庁)

## 【世界気象機関（WMO）特設ページ（英語）のメッセージの仮訳】

「今日を観測し、未来を守る」

### 天気はどうなるの？

これは最もよく聞かれる質問の一つです。

私たちは、携帯電話の画面をタップしたり、テレビのスイッチを入れたりするだけで、瞬時に答えを得られることが当然だと考えています。

しかし、それぞれの予報の背景には、世界気象機関（WMO）が調整する、類を見ない世界規模のネットワークにおいて、何千ものプロセッサによって処理された何百万もの観測データが存在しています。

陸上にせよ、海上にせよ、上空にせよ、皆さんが利用している予報は、WMO が調整する無料・無制約の観測データの交換に裏打ちされています。

地球を周回する衛星にはじまり、空に放たれる観測気球、海に浮かぶブイや船舶、そして遠隔地の観測所まで、気象観測は私たちの日常から数十億ドル規模の意思決定に至る、あらゆるものを支えてきました。

WMO が調整する、この膨大で往々にして目に見えない観測・予報システムは、私たちの経済を支える背骨であり、早期警戒のための中枢神経系として、これまで数百万もの命を救ってきました。

この世界気象デーは、今日の地域社会を守り、未来の強靱性を築くため地球観測に取り組み続ける WMO コミュニティの活動を称えるものです。

### 観測が必要な理由

気象にはパスポートがなく、気候は国境を知らず、水は私たち全てをつないでいます。それらに関する課題は単独では解決できないほど大きなものです。予報には地球規模の観測データが必要であり、一国だけで実施することはできません。信頼とデータ共有に基づく国際協力こそが、予報の精度・リードタイム・利用しやすさを向上させ続けるために不可欠なのです。

あらゆる経済的意思決定、インフラ投資、作付計画、保健・水・エネルギー管理計画、サプライチェーンの調整は、WMO の全球的な観測・予報システムに依拠しています。

異常気象は、世界経済フォーラムのビジネスリーダーたちから、常に長期リスクの最上位に位置づけられており、国連事務総長のイニシアチブ「すべての人々に早期警戒を」の原動力となっています。

これは驚くべきことではありません。[1970 年から 2021 年にかけて、異常気象関連の災害が報告された経済損失は 4.3 兆米ドルに上り、約 200 万人の命が失われたとされています。](#)

す。

早期警戒は贅沢なものではなく、必要不可欠なものであり、経済的にも合理的です。世界銀行によれば、早期警戒サービスへの普遍的アクセスは毎年少なくとも 130 億米ドルの資産損失と 220 億米ドルの福祉損失を防止するとされています。わずか 24 時間前の事前警報で暴風雨や熱波の被害を最大 30%削減できるのです。

気温の上昇により、熱波の激化、極端な降雨、急速に発達する熱帯低気圧が増加し、気象リスクは高まっています。

WMO の「世界の気候 2025」によれば、2025 年は観測史上 3 番目に暖かい年となりました。また、過去 11 年間（2015 年から 2025 年）は、全て観測史上最も暖かい 11 年間でした。記録的な温室効果ガス濃度は、今後何世代にもわたり気温上昇をもたらすでしょう。

陸域・海洋の熱の蓄積、氷河・氷床の融解、海面上昇など、急速に変化する気候の影響を監視する上で、地球観測はこれまで以上に重要となっています。地球観測は、経済や地域社会を守るための意思決定を支える、気象・気候情報の基盤となります。

しかし、陸域・雪氷圏・海洋における地球観測システムには大きな空白域が存在し、私たちの行動の有効性を損なっています。そのため、WMO はこうした空白域の解消に取り組んでいます。

観測ネットワークへの資金提供は、納税者にとってのコストではなく、経済安全保障と長期的な気候レジリエンスへの投資であり、国と世代をつなぐ架け橋なのです。

今日の観測によってのみ、未来を守ることができるのです。

## 観測システムはどのように機能しているのか？

WMO の世界気象監視 (WWW) 計画は 1963 年に設立されました。他の WWW (ワールドワイドウェブ) ほどは知られていませんが、おそらく同じくらい重要です。

毎日、WMO 統合全球観測システム (WIGOS) の一環として、世界中の数千の地上観測所、海洋ブイ、船舶、航空機、衛星によって、数百万の観測データが収集されています。これらの観測データは、WMO 情報システム (WIS) を通じて共有され、WMO 統合処理・予測システム (WIPPS) で処理されることで、運用可能なプロダクトやサービスとして提供されます。

これと並行して、全球大気監視 (GAW) ネットワークは、温室効果ガスや主要汚染物質の濃度、そして地球を保護するオゾン層の状態を監視しています。

全球気候観測システム (GCOS) は、地球の状態を反映する主要な気候の指標について、より長期的な視点を提供します。

これらは単なる名称やアルファベットの略称ではありません！

こうした人類の専門知識、技術的創造性、そして世界的な協力の比類なき組合せによって、何十億もの人々に信頼性が高くタイムリーな予報が提供されているのです。

**地上観測** – 気温、湿度、気圧、降水量、風向・風速 – は、自動気象観測所や人間の観測者によって一斉に記録・送信されます。WMOが調整するネットワークには約16,300の地上気象観測所が含まれ、そのうち約9,000が全球基盤観測網（GBON）に属しています。

毎日2回、世界中の大陸において、極地、山岳地帯、小さな島嶼部や都市の空港を含めた1000か所以上から気象観測気球が打ち上げられます。気球は高度30キロメートルまで上昇し、気温、湿度、風向・風速を測定し、データをリアルタイムで送信します。1時間以上経過すると、気球は破裂し、小型観測機器が降下します。

**海洋観測** – 数千の観測プラットフォームが「目」となり、気象予報・早期警戒・気候予測を支えます。

観測において主要な役割を担うアルゴ計画では、約4,000台の自動的に浮き沈みする観測機器が海洋の熱量・塩分濃度・循環パターンを監視しています。さらに、1,000隻以上の篤志観測船がリアルタイムの気象データを提供しており、これを [10,000 隻に拡大する取組](#)が進められています。

**航空機観測** – 飛行の安全性と効率性には気象予報が不可欠であり、航空機は自らも恩恵を受ける観測システムに情報を提供しています。全球的な航空機気象データリレー（AMDAR）観測システムでは、WMO、航空当局及び40の民間航空会社と連携し、気温、風速・風向の高品質な観測が1日70万件以上実施されています。

**衛星** – 地球観測衛星データは、気象予報にとって最も重要な入力データであり、90以上の宇宙機関・組織によって運用されています。現在、約400基の地球観測衛星が軌道上に存在し、うち31基が静止軌道（高度32,000km）、300基以上が極軌道（高度500-800km）を周回しています。さらに、主に宇宙天気観測を支援する衛星が他の軌道上に配置されています。

これらの衛星は、大気、海洋、陸地、氷の状況を絶え間なく地球規模で観測しています。これにより、発達する低気圧の追跡、気温の測定、海面上昇や氷河・海水の変化の観測、山火事や砂塵嵐の検知が可能となります。衛星がなければ、地球の広範な領域、特に地球表面の70%以上を占める海洋は、依然として観測が不十分なままだったでしょう。

## 観測の空白域を埋める

鎖の強さは最も弱い環によって決まります。

気象予報は24時間365日の全球観測データに依存しています。しかし、地理的に大きな観測の空白域が存在します。

後発開発途上国や小島嶼開発途上国の多くの観測所は稼働していないか、不安定な状態にあります。この結果、地上観測所の密度が世界標準を大幅に下回るアフリカにおいて、重大なデータの空白が生じ、地域レベルだけでなく全球的にも予報精度を低下させています。

この課題に対処するため、WMOの全球基盤観測網は、全ての気象・気候・水関連サービスとプロダクトを支える観測データの国際交換を根本的に刷新する道を拓いています。より良いデータはより良い防災につながり、各国が人命を救い、人々の生活を守ることを可能にします。

[組織的観測金融ファシリティ \(SOFF\)](#) は、後発開発途上国や小島嶼開発途上国が、国際的に求められる観測を持続的に実施し、データ交換できるよう、長期にわたる財政的・技術的支援を提供します。

[欧州中期予報センター \(ECMWF\) による影響実験研究](#)によれば、不可欠な気象・気候データのギャップを埋めることで、気象予報の誤差をアフリカでは30%、太平洋地域では20%減らすことが可能とされています。

また、世界銀行によれば、こうした改善により年間50億米ドルの直接的な便益が生み出され、農業・エネルギー・水・運輸などの主要分野で1,600億米ドルの幅広い経済的利益が創出される可能性があります。

より広範な地球観測ネットワークにも空白域は存在します。

[全球気候観測システム](#)とそのパートナーである全球海洋観測システムは、観測網の不足、継続的な資金調達の課題、データアクセスの壁に直面しています。

今こそ、この空白域を埋める必要があるのです。

## 未来を守る

私たちが発表する全ての予報、警報、交換するあらゆるデータセットは、究極的には一つの目的—未来を守る—ためにあります。

未来の人々。未来の地球。

正確でタイムリー、かつ利用しやすい気象・水文・気候データは、強靭性の基盤となります。気候変動に関するパリ協定で定められた1.5°C目標の超過が避けられない状況に世界が近づく中、これらのデータは今後さらに重要性を増すでしょう。手に負えなくなる前に、超過の程度と期間を抑制することが不可欠です。

リスクに加え、多くの機会も存在します。

私たちは技術革命の真っ只中にいます。人工知能 (AI) と高度な計算技術は気象・気候科学を変革し、気候変動への適応、防災、持続可能な開発を支える非常に大きな可能性を秘めています。

AI は、予報技術を高め、影響に基づいた警報を改善しています。公正に活用されれば、スーパーコンピュータを持たない途上国が飛躍的に高度な能力を獲得する助けとなるでしょう。

信頼を堅持しつつイノベーションを育てなければなりません。AI がもたらす能力は、国家気象水文機関の権威ある役割を補完するものであり、置き換えるものであってはなりません。

人間の知性は、引き続き AI の基盤であり続けます。

未来を守るためには、科学・技術・工学・数学（STEM）分野における若者の教育、訓練、機会への投資が必要です。

今日下される決定がもたらす結果と向き合うことになる若者たちの声に耳を傾けることが必要です。

若者は単に未来のリーダーであるだけでなく、今日のリーダーでもあります。

世界中で、若い気象学者、水文学者、海洋学者、気候科学者たちがイノベーションと行動を推進しています。

WMO のユース行動計画は、世界のあらゆる地域から次世代の気象・気候専門家を巻き込み、その力を引き出すことを目指しています。

世界気象デーは、気象、気候、水が私たち全てをつないでいることを思い出させてくれます。

今日を観測するとき、私たちは単に天気を予測するだけでなく、未来を守っているのです。